The Record

vol.689
2017
april
4

75 周年を迎えた日本レコード協会
平成 29 年度事業計画書

Monthly News Digest

Contents

Monthly News Digest 1

特 集
75 周年を迎えた日本レコード協会 4

特 報
「知的財産推進計画 2017」の策定に関する
意見書を提出 8

平成 29 年度事業計画書 9

第9回 CD ショップ大賞 2017 授賞式開催 11

ヒットの裏側 12

Monthly Production Report 13

GOLD DISC 14

2/20 PROMICセミナー開催

2 月 20 日、当協会会議室にて PROMIC による海外担当者向けのセミナーが行われた。今回は、スポティファイジャパン株式会社から野本晶氏をスピーカーに招き、「世界の音楽市場においての日本音楽の可能性」というテーマで講演がなされた。

セミナーでは、昨年 9 月末に日本でサービスがスタートした世界最大級の音楽サービス「Spotify」について、「日本音楽の海外進出」という切り口で紹介が行われた。Spotify での非英語楽曲のグローバルヒット事例や日本アーティストのキャンペーン展開事例、さらには Spotify 独自の新人アーティスト紹介スキームやキュレーターによる「プレイリスト」発信によるヒットについても具体的な事例を交えながら説明があり、講演は終了した。

2/28 第74回RIAJセミナー開催

2 月 28 日、当協会会議室にて第 74 回 RIAJ セミナーを開催した。今回は「世界で活躍する日本のアーティストの共通点とは～ J-MELO リサーチから考える～」をテーマに、NHK の海外向け放送「NHK WORLD」の人気音楽番組「J-MELO」を番組スタート時から 12 年間担当する原田悦志（のぶゆき）氏が講演した。

セミナーでは、英語で情報を発信する際に気を付けていることや、2010 年から行っている視聴者調査「J-MELO リサーチ」の動向を基にした「海外で人気の日本アーティストの傾向と変遷」「J-pop の多様性」についての話など多岐にわたって説明がなされ 、参加者からは「原田氏の視点による分析は説得力があり、新鮮だった」等の声が聞かれた。

3/4 CROSS KYOTOセミナーにて原専務が講義

3 月 4 日、京都府京都市の西陣産業創造會舘にて開催された、「音楽業界の映像戦略 – 音楽と映像の親密な関係 –」セミナーにおいて、当協会 原専務が「音楽業界の歴史と現在」をテーマに講義を行った。

本セミナーは、京都初のコンテンツ企業、クリエーターの交流支援ネットワークである「CROSS KYOTO」を展開する京都クロスメディア推進戦略拠点をはじめ、京都府、公益財団法人京都産業 21、京都次世代ものづくり産業雇用創出プロジェクト推進協議会の主催によるもの。当日は、日本のレコード産業や音楽に関する映像サービスの歴史、レコード会社のビジネスと著作権、国内外の市場規模・状況、当

このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す一般社団法人 日本レコード協会の登録商標です

協会が行っている施策のほか、音楽と映像の可能性について、事例を交えながら説明を行った。セミナーの後半には、日本コロムビア株式会社 マネジメント事業部 No Big Deal Records レーベルプロデューサーの土門義隆氏による「音楽業界の映像戦略」の講義が行われた。

受講生からは、「音楽業界にとって映像が重要な役割を果たしていることがよく理解できた」「VR、サブスクリプション、動画サイト、4K/8K など、音楽と映像の未来に可能性を感じた」といった意見が寄せられた。

●●●会員社のお知らせ ●●●

■ 代表者変更

社　名：株式会社スペースシャワーネットワーク（準会員）

変更後：代表取締役社長　近藤 正司
変更前：代表取締役社長　清水 英明

●●●当協会組織変更 ●●●

■ 4 月 1 日付

- 企画部と広報部を統合し、「企画・広報部」とする
- 従来の企画部内のマーケティング・グループと海外マーケティング・グループを統合し「企画グループ」とする。
- 従来の広報部は「広報グループ」とし、新設の企画・広報部の傘下に置く

●●●当協会事務局人事 ●●●

■ 異動（4 月 1 日付）

庄司　恵人
企画・広報部 部長（前：企画部 部長）

須貝　あゆみ
管理部部長 兼 人事・総務グループ長 兼 経理グループ長（前：管理部部長 兼 広報部部長 兼 人事・総務グループ長 兼 経理グループ長）

末永　昌樹
著作権保護・促進センター 副センター長
（前:企画部　マーケティング･グループ　課長）

米内　友伸
企画・広報部　企画グループ　課長
（前:企画部　海外マーケティング･グループ　課長）

丹野　祐子
企画・広報部　広報グループ　課長
（前：広報部　課長）

■ 退社（3 月 31 日付）

佐野　浩一郎
著作権保護・促進センター　副センター長

入会のご挨拶

3 月 1 日付新入会（準会員）

この度は一般社団法人日本レコード協会の準会員として入会をご承認いただき誠にありがとうございます。

弊社は、「人と素晴らしいエンタテインメントが結ばれる“感動の場”を創出し、人々を幸せにし、世の中を豊かにする」を経営理念に事業展開を行っており、近年は特にK-POPを中心としたレーベル活動を行ってまいりました。新参者ではございますが、転換期を迎えている音楽業界に貢献できるよう邁進していく所存です。

また今後は、より社会に貢献できるよう、よりお客様に楽しんで頂けるよう、K-POPだけに留まらず、J-POPをはじめジャンルレス・ボーダーレスな音楽制作にも挑戦してまいりたいと考えております。

皆様方には、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社キッス・エンタテインメント
代表取締役社長　李　成在

「Coming Next 2017」を AbemaTV にて放送

3月23日に豊洲PITで開催した本イベントのオンエアが決定しました。

全18組のアーティストによるパフォーマンスをぜひご覧ください。

日時：2017年4月23日（日）
17時～（予定）

公正取引委員会へ再制弾力運用報告書を提出

３月９日、当協会は 2016 年 12 月 31 日時点のレコードメーカーによる「音楽 CD 等の再販制度の弾力運用の状況について」を報告書として取りまとめ、公正取引委員会に提出した。ここでは同報告書より抜粋した内容を掲載する。なお、当協会ホームページにて報告書全文を公開している。（http://www.riaj.or.jp/f/leg/saihan/）

【音楽用CD等の再販制度に関する弾力的な運用と流通改善について】

1. 時限再販・部分再販等再販制度の運用の弾力化

（1）時限再販期間の短縮について

レコードメーカー各社は、1998 年以降時限再販期間のさらなる短縮に取り組み、現在再販期間は１年または６カ月となっている。

（2）時限再販期間経過後商品の値引き販売について

店頭値引き販売は常態化している。

（3）非再販商品の発売と値引き販売について

全 CD 新譜は 14,787 タイトル（2015 年 15,534）であったが、そのうち、CD ＋ DVD 商品は 1,943 タイトル（2015 年 1,886）、非再販 CD のタイトル数は 1,820 タイトル（2015 年 2,045）となり、CD ＋ DVD 商品および非再販 CD の合計で 3,763 タイトル（2015 年 3,931）が非再販商品として発売された。

CD ＋ DVD 商品は今年もヒット作品で多く発売されており、2016 年に発売され正味出荷枚数が 100 万枚を超えた「ミリオン認定作品」はシングル５タイトル、アルバム１タイトルの計６タイトル（2015 年シングル４タイトル、アルバム３タイトル、計７タイトル）であったが、そのうち５タイトルが CD ＋ DVD 商品の形態で発売された。

（4）インターネット廃盤セールの実施

1992 年度から毎年実施しており、好評を得ている。

名　　称：レコードファン感謝祭
～廃盤 CD ディスカウントセール～
日　　程：2017 年１月 11 日（水）～１月 23 日（月）の 13 日間
出品商品：約 1,100 タイトル、総数約 20,000 枚
廃盤商品は発売時定価の 70%引き、時限再販期間経過商品は発売時定価の 25%引きで販売。

（5）価格表示方法の変更について

商品が非再販となっているか否かを認知しやすい方法に変更している。

2. 各種割引制度の導入等価格設定の多様化

2016 年のアルバムの年間平均小売価格は 2,041 円となり、2015 年の 1,966 円より 75 円上昇した。なお、2001 年当面存置決定当時の 2,399 円対比では約 15%下落している。

3. 再販制度の利用・態様についての発行者の自主性の確保

従来からレコードメーカー各社が自らの判断で決定しており、今後も同様である。

4. サービス券の提供等消費者に対する販売促進手段の確保

サービス券・ポイントカードは消費者サービスの一環として定着している。

5. 通信販売・直販等流通ルートの多様化およびこれに対応した価格設定の多様化

メーカー各社は、従前から消費者の購入利便性の向上のため、通販・直販等流通ルートの多様化に取り組むと同時に、多様な価格設定を行っている。

6. 円滑・合理的な流通を図るための取引関係の明確化・透明化その他取引慣行上の弊害の是正

取引関係に関する特段の弊害はない。

7. その他

レコードメーカー各社、販売店、有料音楽配信サイトでは、CD 音源の無料試聴サービスを実施している。また販売店においても、デジタル試聴機が導入されており、2016 年 12 月末時点で 547 店に 1,355 端末が設置され、バーコード検索により 356 万曲の試聴が可能となっている。

レコード業界は、音楽用 CD 等の再販制度について国民から引き続き理解が得られるよう、今後も消費者利益の向上を目指し、音楽用 CD 等の企画の多様性の確保、流通の合理化などの改善に積極的に取り組んでいく。

以上

75周年を迎えた日本レコード協会

2017年4月30日に、設立から75周年の節目を迎える日本レコード協会。今号では、70周年の2012年から2016年の5年間を掘り下げて紹介。日々変化の絶えない音楽ビジネス・レコード産業とともに、新たな事業を展開してきたレコード協会を特集する。

創立75周年を迎えて

本年4月30日、日本レコード協会は創立75周年を迎えます。これもひとえに多くの皆様のご支援の賜物と改めて御礼申し上げます。

簡単にこの5年間（2012年～ 2016年）を振り返ってみたいと思います。まず、レコード等の生産実績と音楽配信売上金額の合計は2012年が3,651億円に対し2016年は2,985億円となりました（主因はパッケージ商品の減少）。このような厳しい状況の中、当協会も全ての事業についてあらかじめ予算化するのではなく、予備費を多く確保し、必要な都度理事会の承認を経て機動的に執行できるよう運営してきました。事業としては、違法音楽配信への対策を中心に著作権啓発活動等を充実させるとともに、業界全体の需要喚起のための事業を行う場合には単発のイベント等への支出を極力抑えてまいりました。

次に、著作権法の問題では対照的な二つの大きな出来事がありました。一つは、違法な音楽・映像をダウンロードする行為の一部に罰則が導入されたこと（2012年）、そしてもう一つはデジタル放送専用のDVD録画機等が私的録画補償金の対象かどうか争われた裁判で私的録画補償金管理協会（SARVH）の敗訴が確定（2012年）し、私的録画補償金制度が機能不全に陥ったことです。前者は、新たな音楽を生み出すには正しいルールで音楽を利用する必要があることを広く訴求するメッセージとなりました。しかし、後者は、私的録画するユーザーと私的録画に供する機器等を販売する事業者の利益が優先され、私的録画される著作物等の権利者に利用の対価が還元されないという極めてアンバランスな状況を作り出し、現在もなお大きな課題として残されています。

また、この5年間は東日本大震災からの復興支援に業界をあげて取り組んだ期間でもありました。2011年3月の東日本大震災により多くの犠牲者と甚大な被害が生じました。当協会を含む音楽関係団体は、10月に国立代々木競技場一帯で震災復興イベント「東日本大震災復興祭2011 ～子供たちの未来のために～」を開催し、2012年3月にその入場券売上等9,521万円余を岩手、宮城、福島3県の子供育英基金に寄附しました。当協会の事業としても1963年から実施している福祉厚生・療養施設等へのレコード寄贈を、被災地の臨時災害FM局、図書館および避難所にも拡大し、現在も継続しています。

今後当協会は、2022年の創立80周年に向けて、レコード産業全体の売上や権利収入を「伸ばす」こと、違法な音楽利用を「なくす」こと、そしてレコード産業からのメッセージを広く「伝える」ことに資源を集中し、業界発展のため着実に成果を出していきたいと考えております。今後とも皆様の一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2017年4月
一般社団法人 日本レコード協会
常務理事　高杉 健二

5年間の歩み

2012年3月

「東日本大震災復興祭 2011 ～子供たちの未来のために～」寄附金目録贈呈式を実施

2011年10月29日、30日に音楽関係5団体によって開催した震災復興イベントの入場券売上等を「いわての学び希望基金」、「東日本大震災みやぎこども育英募金」、「東日本大震災ふくしまこども寄附金」へ寄附、その目録贈呈式を執り行った。

東日本大震災復興祭2011
～子供たちの未来のために～

2012年9月

第1回「音のサロン」開催

9月27日、千代田区立日比谷図書文化館、日本オーディオ協会、当協会の共催による、千代田区民講座「音のサロン」の第1回目ビートルズを聴く♪」開催。
同イベントは2017年4月現在12回実施している。

2012年9月

「STOP! 違法ダウンロード広報委員会」設立

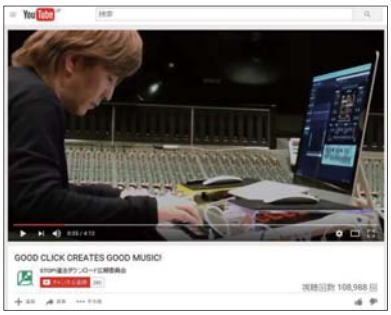
9月10日、当協含めた7団体によって、「STOP! 違法ダウンロード広報委員会」を設立した。
当委員会は、10月1日に施行となった改正著作権法のうち「私的違法ダウンロードの罰則化」に関する周知・啓発活動を展開することにより、違法ダウンロードの撲滅および著作権・著作隣接権の保護を図り、音楽文化の発展に寄与することを目的としている。

2014年5月

STOP! 違法ダウンロード広報委員会 啓発ビデオ「GOOD CLICK CREATES GOOD MUSIC!」を制作・公開

STOP! 違法ダウンロード広報委員会は、違法ダウンロードが音楽を創る環境を壊している状況に歯止めをかけるべく、全国の青少年向けに今までにない「STOP! 違法ダウンロード」啓発動画を制作。5月1日よりYouTubeにて公開した。

（出演：小室哲也氏、元スケボーキング SHIGEO 氏）



2014年

CPPC
Copyright Protection and Promotion Center

2013年4月
著作権保護・促進センター（CPPC）※ 設立

※インターネット上の違法音楽配信対策の大幅な強化、適法コンテンツ利用促進を目的とした専任組織

2013年

J·Music LAB ジェイ・ミュージックラボ

年間生産実績14年ぶりに前年を上回る

2012年10月
著作権法一部改正法施行
（私的違法ダウンロードの罰則化）

創立70周年

2012年

70 Anniversary

2013年11～12月

「J-Music LAB」ジャカルタで初開催

11月15日～12月15日の1カ月間、インドネシア・ジャカルタのショッピングモール内イベントスペースにおいて、日本音楽の情報を発信するプロモーション事業「J-Music LAB（ジェイ・ミュージックラボ）」を展開。

＜以降の実施状況＞
2014年8月・11月　インドネシア
2015年11月　バンコク
2016年1月　タイペイ

2014年2月

GDフェス初開催

2月22日、渋谷区の渋谷公会堂において、「GOLD DISC FESTIVAL（GDフェス）」を開催。第28回ゴールドディスク大賞のプレイベントとして、ネクストミリオンアーティスト5組が共演した。

【出演アーティスト】
きゃりーぱみゅぱみゅ、クリス・ハート、水樹奈々、miwa、May J.（敬称略・五十音順）

2016年

サブスクサービスが続々登場

2015～2016年に登場した主なサービス

AWA
LINE MUSIC
Apple Music
Google Play Music
Amazon Prime Music
Rakuten Music
Spotify　など

2015年

2017年

4月、創立75周年へ

有料音楽配信売上が3年連続プラス成長

日本ゴールドディスク大賞 アーティスト・オブ・ザ・イヤー※（2012～2016年）

第26回（2012年発表）	【邦楽】AKB48	【洋楽】レディー・ガガ
第27回（2013年発表）	【邦楽】AKB48	【洋楽】シェネル
第28回（2014年発表）	【邦楽】AKB48	【洋楽】ONE DIRECTION
第29回（2015年発表）	【邦楽】嵐	【洋楽】ワン・ダイレクション
第30回（2016年発表）	【邦楽】嵐	【洋楽】ザ・ビートルズ

http://www.golddisc.jp/

2015年2月

Coming Next 初開催

2月15日、渋谷区のNHKホールにおいて「Coming Next 2015」を初開催。本イベントは、正会員社が“次に聴いて欲しい！”Next Artistによる、ジャンル・レーベルを超えたライブイベント。

2016年2月　NHKホール
2017年3月　豊洲PIT

http://www.comingnext.jp/

2016年3月

日本ゴールドディスク大賞が30回を迎える

1987年に制定し、以来毎年、当該年度のレコード産業の発展に大きく貢献したアーティストおよび作品を顕彰してきた日本ゴールドディスク大賞。
多くの音楽ファンに支えられ、2016年で第30回の節目を迎えた。

※アーティスト・オブ・ザ・イヤーについて
対象期間中のCD、音楽ビデオ、有料音楽配信等の正味売上金額合計が最も多いアーティストに贈られる賞（邦楽、洋楽各1組）

ミュージック・ジャケット大賞 大賞受賞作品（2012～2016年）

http://mja.jpn.com/

2012年
「もしもし原宿」
きゃりーぱみゅぱみゅ

2013年
「Yun*chi」
Yun*chi

2014年
「Delight」
miwa

2015年
「逆輸入～港湾局～」
椎名 林檎

2016年
「YELLOW DANCER」
星野 源

エルマーくん５周年！

音楽コンテンツの正規配信サイトに表示している「エルマーク」のキャラクターとして登場した「エルマーくん」。

2012 年に「ダウンロード OK」「視聴のみ OK」「転載 OK」という利用形態を示す 3 種類のマークを新たに作成した際に登場したエルマーくんも、今年、誕生から 5 年を迎える。

レコード協会の Web サイトでは、エルマーくんによるエルマークの解説ページが設置されているほか、当協会のみならず、他企業・団体による各種キャンペーンや学生の職場訪問などでキャンペーンチラシ、グッズを配布し、エルマークの一層の認知拡大に努めている。

http://www.riaj.or.jp/leg/lmark/

エルマーくん

エルマーク®

エルマークとは？

エルマークは、音楽ユーザーが安心してインターネットで音楽や映像を楽しめるように、正規の音楽・映像配信サイトで表示されている“安心”のマーク。パソコン、スマートフォンをはじめとする携帯電話向けサイトのトップページ下や、購入ページ、再生画面ページなどに表示されている。

エルマークの発行を受けたサイトおよび配信事業者は、1,643 サイト 280 事業者にのぼる。（2017 年 3 月 22 日現在）

利用形態を示す 3 種類のマーク

音楽の購入ページや再生画面ページでは、音楽や映像ごとの利用可能な方法を伝えるために特徴のあるエルマークが表示されている。このマークの種類によって、その音楽や映像が「ダウンロード OK」「視聴のみ OK」「ダウンロード・転載 OK」か一目で判別が可能となる。

視聴のみできる
正規コンテンツです

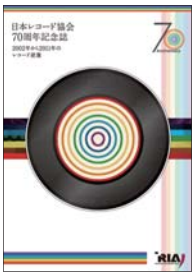
ダウンロードできる
正規コンテンツです

転載もできる
正規コンテンツです

記念誌の紹介

今号の特集で掲載できなかった、設立から 70 周年までの歩みは、これまで当協会が発行した記念誌でご覧いただけます。
なお、60 周年誌・70 周年誌につきましては、当協会ホームページで公開しています。
http://www.riaj.or.jp/f/issue/anniversary/

60 周年誌



70 周年誌

1942 年生まれ
RIAJ と“同級生”は？

キャロル・キング（米 ニューヨーク）

ポール・マッカートニー（英 リヴァプール）

ジミ・ヘンドリックス（米 シアトル）

山下 洋輔（東京）

日野 皓正（東京）

などなど…
数多いミュージシャンが同級生です！

特 報 Special Report

「知的財産推進計画 2017」の策定に関する意見書を提出

1月19日から2月17日にかけて、知的財産戦略本部により実施された「知的財産推進計画 2017」の策定に関する意見募集に対し、当協会の意見書を提出したので、以下にその概要を紹介する。

1. 環太平洋パートナーシップ（TPP）協定に定められている著作権関係事項の早期実施

2016年12月に可決・公布された「環太平洋パートナーシップ協定の締結に伴う関係法律の整備に関する法律」（TPP協定整備法）に定められている以下の著作権関連事項は、TPP協定の発効を待たず一日も早く実施を図るべきである。

（1）レコード保護期間の延長

レコード保護期間の終期を現行の「発行後50年（最初の音固定後50年以内に発行されない場合は最初の音固定後50年）」から「発行後70年（最初の音固定後70年以内に発行されない場合は最初の音固定後70年）」に延長すべきである。

（2）配信音源の二次使用に対する使用料請求権の付与

商業用レコードの放送・有線放送（放送等）での使用に関しては、放送事業者等からレコード製作者に一定の対価（二次使用料）が還元されているが、配信音源は二次使用料請求権の対象になっておらず、アンバランスが生じているため、放送等における配信音源の使用についても使用料請求権を付与すべきである。

2.「レコード演奏・伝達権」の創設

公衆に聴かせるための演奏・伝達行為について、著作権者は演奏権および公の伝達権を有しているが、レコード製作者にはこれらに相当する権利（「レコード演奏・伝達権」）が存在しない。

「レコード演奏・伝達権」に相当する権利は、既に世界145カ国（OECD加盟35カ国中33カ国）において導入されている中、我が国も、新たなレコード製作の経済的基盤を確保するための権利として導入すべきである。

3. クリエイターへの適切な対価還元制度の整備

ユーザーは、デジタル複製機能を有する多種の機器・サービスを用いて高品質の著作物を享受できる環境にある一方、クリエイターである権利者は、現行の私的録音録画補償金制度の空洞化により適切な対価還元を受けておらず、権利保護と利用促進のバランスが著しく損なわれている。政府は、クリエイターが適切な対価還元を受けられる実効的な制度を早急に整備すべきである。

4. 放送番組のインターネット同時送信に関する方策検討の在り方

放送番組のインターネット送信について、当協会は、平成18年にレコード送信可能化権の集中管理を開始し、その枠組みの下でNHK・民放等の放送番組配信は安定的に実施されており、レコードの利用円滑化が既に図られている。

現行法制度の下で権利の集中管理を促進することが権利者・利用者双方の利益に適うものであり、安易な許諾権の切下げや権利制限の導入等の議論を行うべきではない。

5. 動画投稿サイトに係る法的ルールの見直し

動画投稿サイトにおけるUGC（ユーザー生成コンテンツ）の公開について、動画投稿サイト運営事業者は、プロバイダ責任制限法の枠組みに基づき、権利者から侵害通知を受けた後に削除等の送信防止措置を講ずれば原則的に損害賠償責任を負わないものとされている。しかし、プロバイダ責任制限法の制定時には想定されていなかった動画投稿サイトが、権利侵害コンテンツを含む大量のUGC公開をベースにビジネスモデルを発展させている状況に鑑み、動画投稿サイトに係る法的ルールの在り方について、プロバイダ責任制限法の見直しの検討を行うべきである。

（参考）

EUでは、2016年9月に新指令案（デジタル単一市場における著作権指令案）が公表され、大量のUGCを保存・公開する動画投稿サイト運営事業者について、権利者と締結した契約の実効性を確保し、又は権利者が特定した権利物の無許諾配信を防止するための手段を講じる義務などが規定されている。

6. ウェブサイトへのアクセス遮断措置（サイトブロッキング）の導入

膨大な数にのぼるインターネット上の著作権等侵害は、もはや権利者による事後的な対応だけでは侵害量の顕著な減少は期待できない状況となっている。

政府は、違法の蓋然性が極めて高いウェブサイトへのアクセス遮断措置（いわゆるサイトブロッキング）の導入を積極的に検討すべきである。

特 報 Special Report

平成 29 年度事業計画書

平成 28 年の市況を振り返ると、音楽パッケージソフト（オーディオレコードおよび音楽ビデオの合計）の年間生産金額は前年比 97% の 2,456 億円となった。また、有料音楽配信の売上金額はサブスクリプションサービスが同 161% と大きく成長し、配信市場全体では前年比 112%の 529 億円と 3 年連続で増加した。この結果、音楽ソフト（オーディオ＋音楽ビデオ）の生産金額と有料音楽配信売上の合計は前年比 99%の 2,985 億円となり、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。

当協会では、担う役割を 3 つ（①業界の収益を「伸ばす」、②違法を「なくす」、③レコード産業からのメッセージを「伝える」）に再定義し、優先度を付けて事業に取り組む。

平成 29 年度の具体的な事業は以下の通りである。

〔事業活動〕

[1] レコード等の普及に関すること

1.「音楽 CD の再販制度」の維持

(1) 音楽文化発展の基盤となる「音楽 CD の再販制度」の存置を引き続き求めるとともに、制度の弾力運用を推進する。
(2) ユーザーサービスの一環として実施しているインターネット廃盤セールを継続開催する。

2. 新人アピールを主軸とした業界広報の強化

業界広報強化のため、新規ウェブサイトの構築等により情報発信基盤を強化し、会員各社の新人アピールを中心に据えて、戦略的な組立てによる業界からのメッセージをユーザーに発信する。

3. 需要喚起事業の展開

(1) 新人アーティスト育成の施策である「Coming Next」について、昨年度の実施結果を検証した上で、新規の業界広報施策との最適な連携方法を検討し、実施する。
(2) Music Jacket Promotion Committee（MJPC）が主催する「ミュージックジャケットギャラリー」について、パッケージ商品の魅力を訴求しさらなるユーザーの拡大を図ることを目的に協賛を継続する。
(3) パッケージ商品およびデジタル配信市場の活性化のため、新規の需要喚起施策を検討し実施する。

4.「日本ゴールドディスク大賞」の実施

アーティスト・作品の顕彰と日本音楽の歴史の記録として「日本ゴールドディスク大賞」を継続して実施する。

5. 日本音楽の海外展開の促進

会員各社の海外展開を支援するため、一般財団法人音楽産業・文化振興財団（PROMIC）が行う諸施策との連携および支援をこれまで以上に強化する。具体的には下記に掲げる諸施策において密接に協力する。

(1)「東京国際ミュージックマーケット（TIMM）」への協力
(2) アンバサダー／インフルエンサー等による海外向け情報発信の強化
(3) 会員各社のニーズに応じて、展開国における音楽マーケット状況の調査・情報提供や原盤ライセンスに関するセミナー・商談会等の実施
(4) その他、日本音楽の海外展開促進に資する施策

6. RIAJ セミナーの開催

会員各社へのタイムリーな情報提供を目的としたセミナーを定期的に開催するとともに、一部テーマについては広く一般に公開するセミナーも検討する。

7. その他

「Music J-CIS（Music Japan-Copyright Information Service）協議会」の構成団体として、音楽権利情報データベースの充実を図る。

[2] レコード等に関する調査研究およびデータの収集

1. 市場調査、産業統計の充実

パッケージ商品および音楽配信に関する各種産業統計データの的確な集計・分析を行い迅速に公表する。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

「音楽メディアユーザー実態調査」を継続実施し、経年変化を把握する。必要に応じ特定テーマについて深掘り調査を行う。

[3] レコードを通じた音楽文化の保存に関すること

1.「文化庁芸術祭」への協力

レコード部門における受付窓口として、選考申請および審査に協力する。

2.「日本プロ音楽録音賞」の共催

録音エンジニアの技術向上と地位確立を目的として継続実施する。

[4] 著作権および著作隣接権等の普及・啓発に関すること

1. 違法音楽配信を撲滅するための対策の強化

(1) 違法配信対策の専任組織「著作権保護・促進センター（CPPC）」において違法音楽ファイルの削除要請を継続して実施する。
(2) 国外サイトに関しては、国際レコード産業連盟（IFPI）との連携により削除要請の対象を拡大するとともに、中国サイトについては、サイト運営事業者への直接訪問による協力関係の構築等により対策を強化する。
(3) 違法な音楽利用を助長するスマートフォン向け有害アプリに関して、アプリ提供者等に対する注意喚起・警告活動や、アプリ削除要請、違法ファイルへのリンク切除要請、ファイル削除要請等のほか、ストレージサービス事業者に対する注意喚起、警告を継続実施する。
(4) 悪質な違法行為者の告訴等を継続して実施する。
(5)「ファイル共有ソフトを悪用した著作権侵害対策協議会（CCIF）」の取り組みに継続参加し、違法行為者に対する啓発メールによる注意喚起活動を継続する。
(6) ファイル共有ソフトを悪用した違法行為者のうち特に悪質性の高い者に関して、発信者情報開示請求に基づく損害賠償請求や告訴等の対応を継続する。

2. 啓発キャンペーン等の周知活動

音楽創造サイクルへの理解を促進させる著作権啓発活動や違法配信問題を訴求する周知活動を、新規の業界広報施策と効果的に連動して実施する。

3. 著作権教育活動の実施

(1) 大学寄附講座を平成 29 年度から国立大学法人電気通信大学で開講し、若年層のレコード産業・著作権制度に対する理解促進に努める。

(2) 音楽が制作される過程を学び、上質な環境で音楽を楽しむ機会を提供するレコーディングスタジオ見学プログラムを実施するとともに、修学旅行生等の職場訪問受入れなど若年層への著作権教育の機会を増大するための取り組みを継続する。
(3) その他、著作権教育の促進に資する活動を実施する。

4. 環太平洋パートナーシップ（TPP）協定が定める著作権関係事項の実現を求める活動

昨年12月に可決・公布されたいわゆるTPP協定整備法に定められている「レコード保護期間の70年への延長」「配信音源の二次使用に対する使用料請求権の付与」について、早期実現に向けた政府への働きかけを継続して行う。

5. クリエイターへの適切な対価還元制度の整備を求める活動

文化庁著作権分科会における検討に参画すると共に、他の権利者団体と連携して私的録音録画補償金制度に代替する新たな対価還元制度の検討を継続して行う。

6. レコードの業務上の演奏利用から適正な対価が還元される法制度創設に向けた活動

国際レコード産業連盟（IFPI）や実演家団体と連携して法制度創設に向けた関係省庁への働き掛けを継続して実施する。

7. 動画投稿サイトに係る法的ルールの見直しに向けた活動

大量の投稿動画を保存・公開する動画投稿サイトの運営事業者に係る法的責任のあり方について、EUの立法動向を注視しながら、プロバイダ責任制限法の見直しに向けた働きかけに着手する。

[5] レコード等に関するデータの公表

レコード産業への理解促進と産業全体のイメージ向上を図るため、機関誌、ホームページ、プレスリリース等を活用して積極的に情報発信するとともに、社会貢献活動や文化活動についても広報する。

[6] レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

二次使用料を安定的に確保するために、放送・有線放送事業者との間で協議を実施し、使用料水準の維持確保に努める。

[7] レコードに関するレコード製作者の複製権、譲渡権および送信可能化権等ならびに実演家の送信可能化権等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 放送番組のネット配信にかかる集中管理の取り組み

新規サービスに対応して管理対象範囲の拡大を検討するほか、現在の配信ビジネス実態を踏まえながら、必要に応じて使用料規程の見直しを行う。

2. 教育・文化・ブライダル分野のレコード利用集中管理事業の推進

(1) 教育・文化系催事に係る一任型集中管理事業の安定化に取り組む。
(2) ブライダル分野におけるレコード利用について、今年度から一任型集中管理を開始し、円滑な運用に努める。また、適法利用に向けた利用者への働きかけを推進するとともに、許諾を得ずにレコードを利用する事業者への対策を強化する。
(3) 集中管理の対象とする教育・文化関連催事の拡大に向けて、主催団体との協議を開始する。

3. ロッカー型クラウドサービスに係る権利処理スキームの検討

過去の文化庁著作権分科会にて音楽権利者団体から提案したワンストップ型の権利処理スキームについて、実現に向けた検討を推進する。

[8] レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

貸レコードに係る新ルールの運用を開始するとともに、使用料等の円滑な分配に努める。

[9] 私的録音補償金に関する指定管理団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の受領および分配

私的録音補償金管理協会（sarah）の構成団体として、私的録音補償金制度の円滑な運用を支援する。

[10] その他

1. 政府の審議会等への委員派遣および経済団体への参画等

文化審議会著作権分科会等へ委員を派遣するなど、外部の会議体等に積極的に参画し、意見を表明する。

2. 国内・国外の団体、機関との連携活動

国内の音楽関係団体ならびに国際レコード産業連盟（IFPI）およびアメリカレコード協会（RIAA）等海外のレコード産業団体との連携と情報交換を積極的に推進する。

3.「レコード倫理審査会」の開催・運営

レコード制作者としての社会的倫理責任を果たすため、「レコード制作基準」にのっとり「レコード倫理審査会」を開催・運営する。

4. 業界規格（RIS）の制定と改正

CD 等レコード商品の表示、付属品等に関する日本レコード協会規格（RIS）について必要な制定・改正を行う。

5. "ISRC"（International Standard Recording Code）の管理機関としての活動

音源の識別に利用される"ISRC"（国際標準レコーディングコード）の国内登録管理機関として、普及・管理に関する活動やコードの申請受付・交付等を行う。

6. 福祉・厚生施設へのレコード寄贈

福祉厚生・療養施設（児童福祉施設、老人ホーム等）の方々に音楽を楽しんでいただくことを目的として昭和38年（1963年）から毎年実施しているレコード（CD）寄贈事業を平成29年度も継続する。

7. 会員各社の業務の集約化（シェアードサービス）

会員各社の業務の効率化と負担軽減を図るため、集約化が考えられる業務に関する会員社ニーズを引き続き把握しながら必要な施策を推進する。

〔運営体制〕

本年度も、関係官庁ならびに関係団体の協力を得て業務を推進する。

以上

特 報 Special Report

第 9 回 CD ショップ大賞 2017　授賞式開催

全日本 CD ショップ店員組合は、3 月 13 日、東京都港区の Future SEVEN にて、第 9 回 CD ショップ大賞 2017 授賞式を開催した。

第 9 回目となる今回の授賞式では、大賞に宇多田ヒカルの「Fantôme」、準大賞に Aimer の「daydream」、が表彰され、さらに部門賞、入賞作品、地方賞の発表が行われた。

授賞式では、大賞を受賞した宇多田ヒカルよりビデオコメントが寄せられ、「この度は第 9 回 CD ショップ大賞 2017 で私のアルバム「Fantôme」が大賞を受賞したという事で、ありがとうございます。配信などによる販売も多い時代ですが、お店に足を運んでもらって、そこで CD を手に取ってもらえるという事は、アーティストとして本当に嬉しいです。今回のアルバムを発売したときに全国の CD ショップの店員さんが作ってくださったポップが、全国のファンから写真で送られてきて、すごく盛り上げてくれているのが伝わってきて嬉しかったです。これからも応援よろしくお願いします。」と喜びを語った。準大賞を受賞した Aimer は、会場に登場し、記念の盾を手に「多くの音楽に触れている CD ショップ店員の皆さんに選んでいただけたことを嬉しく思います。これからも大切に音楽を作っていきます」と受賞の喜びを明かし、受賞作となった「daydream」収録曲の「蝶々結び」を披露した。

さらに、ジャズ賞を受賞した WONK、東北ブロック賞の zero zero z の ERIKA、北陸ブロック賞の Kan Sano、東海ブロック賞の鳴ル銅羅の三輪和也とカバ、中国ブロック賞の丸本莉子も会場に駆けつけ、受賞楯を手に笑顔を見せ、感謝の意を述べた。

「蝶々結び」を披露する Aimer

全国の CD ショップ店員と共に

ジャズ賞・地方賞を受賞したアーティストも会場に駆け付けた

大 賞

宇多田ヒカル「Fantôme」／TYCT-60101

【CD ショップ店員さんのコメント（抜粋）】

◆今回の選出された CD はどれもレベルの高い作品ばかりでしたが、宇多田ヒカルさんの作品は群を抜いており、いろんな世代の方々に認められる本当に良い作品だと思っております。宇多田ヒカルさんが少しずつ成長を繰り返し大人になったその過程を一冊のアルバムのように綴った何年経っても色褪せない名作と言えるのではないでしょうか。

◆これほど CD ショップ大賞の主旨（ネクストブレイク）について悩み抜いた年は無かった。けれどやはり宇多田ヒカルの新作はコレからのシーンにおいて 抜きん出た先進性と圧倒的な存在感、そして音像感を魅せつけてくれた。何より選んだのは【次作はもっと凄いものになりそう】という確信をくれたことへの賛辞の証なのです。

準大賞

Aimer「daydream」／SECL-1987

【CD ショップ店員さんのコメント（抜粋）】

◆最初に Aimer の音楽を聴いた時、イノセントな歌声と、それを際立たせる微かに残るあどけなさに似た何かの言い表しようがない魅力に、これからの時代を担っていく新たな才能が出現したことを確信しました。第一線で活躍する様々なアーティストが参加した本作は、真っ白なキャンバスが多様な色で彩られていくようで、良質な絵画を鑑賞した時のような視覚的な喜びも感じます。自分の語彙力の乏しさがもどかしく感じるほどの唯一無二の個性。百聞は一聴に如かず、ぜひ聴いてみてください。

◆彼女の支持層をグンと広げた一枚であることは間違いない。店舗で働いていて『この曲を歌っているのは誰ですか？』と問い合わせをこんなに多く受けたのは久々でした。様々なジャンルの参加アーティストの力と、本来 Aimer が持っている才能、魅力が相乗効果を成し、新しい彼女を作った傑作。聴かないなんて勿体ない。

※その他受賞作品については、全日本 CD ショップ店員組合サイト（www.cdshop-kumiai.jp/）をご参照ください。

第36回

ヒットの裏側

多くの人を魅了したヒット曲は、どのように世に送り出されたのか。音楽人の苦闘が織り込まれた『ヒットの裏側』をリレー形式でひも解いていく。

心を突き動かされ、思いを尽くす

藤倉 尚 氏
ユニバーサル ミュージック合同会社　社長兼最高経営責任者（CEO）

ブレない原点

人を楽しませる仕事をしたくて、最初はお酒の会社に就職しました。福岡で飲食店への卸売りをしている時、試飲会での新人アーティストのミニライブでレコード会社の人と接点ができました。皆、顔がキラキラ輝いていて、これが人に夢を与える仕事をする人の顔だ、と思いました。音楽の仕事で人を楽しませたいという気持ちが募り、レコード会社への転職にトライしてポリドールに入社、今に至ります。

自分にとって印象的だったのは、ナオト・インティライミとの出会いです。彼との仕事で、何を大切にするべきか明確になりました。立場や環境が変わった今でも大切にしています。

ナオトは、メジャーやインディーズで音楽活動をしてきたけれど思うような結果が出ず、バックパッカーとなって世界を巡っていました。いつか音楽の仕事に戻るための、世界ツアーの前哨戦と思っていたようです。その頃はまだ私も彼を知りませんでした。その後、接点はあったのですが、正直に言うと当時はあまりピンと来ませんでした。

その後、キマグレンが2009年に赤坂BLITZでライブを行った際、対バン相手だったナオトと再会しました。ライブを観て、彼のパフォーマンスに私の心は突き動かされました。このアーティストはやらなきゃいけない！当時の私は制作部門を統括する立場でしたが、誰の許諾も得ず、その場で契約したいとレターを書き、楽屋に残しました。制作会議で熱意を語っても、周囲は「歳を取り過ぎている」「再デビューでは無理じゃないか」という反応。でも自分には、ナオトがドームやアリーナの大舞台で、大勢のファンに囲まれて歌っているイメージが浮かんでいました。どうしても、と皆を説得し、契約しました。

1年目が勝負と考えていましたが、大きな目標として「100万人に届ける」「ドームでライブする」「紅白に出る」のどれかを達成しようと事務所を交えて本人とも話をしました。2010年4月に『カーニバる?』、5月に『タカラモノ～この声がなくなるまで～』を連続リリース。結果、『タカラモノ…』は100万ダウンロードを突破し目標を超え、アルバムも10万枚以上販売、武道館公演も満員御礼。紅白にも出演し、2015年には京セラドームでのライブも実現しました。

心を動かされ、強い思いで取り組んだことで、結果的には多くの人に伝えることができました。過去の実績などデータやセオリーももちろん大切にしています。「ヒットが妄想できる」「紅白出場が描ける」「100万人へ届けられる」のいずれかがイメージできるアーティストとともに心からの伝えたい思いがあって精一杯チャレンジすれば、パワーも加わり伝わる熱量も増え、社内も動かせるし、ヒットの可能性が格段に高まる。自分の中でブレない原点を体感できました。

ヒットの火がついて

もう一つの印象的な作品は、2005年、AIの『Story』です。2004年に新しいレーベルとしてユニバーサルシグマがスタートしたのですが、ヒットに恵まれず苦労していました。そこに、この曲が出てきたんです。私を含めた当時のスタッフは、絶対に多くの人に伝えられると確信しました。社内でも、この曲を支える輪が広がっていきました。直接担当をしていないスタッフも奔走してくれた結果、約300万ダウンロードの大ヒットに至りました。

面白いことに、一つの作品のヒットで周りの空気も変わり、ヒットの輪が次々に広がっていった。徳永英明『VOCALIST』、WaT『僕のキモチ』、TERIYAKI BOYZ®…。レーベル存続の危機だったのが嘘のようでした。まるでご褒美のようにヒットの連鎖がつながったんです。

今はいろんな音楽があって、世界各国で売れるジャンルも全く違う時代になりました。リリースごとにある程度販売の見通しは立てることも可能です。でも作品やアーティストの力そしてスタッフの努力次第で、その予測を超える方法はいくらでもあると思っています。分析や予測はもちろん大事だけれど、それを乗り越えようとする思いこそが、もっとずっと大切なんです。難しい時代に志を持って音楽を伝え、世界でトップを取る日本の楽曲を出したいと思っています。（談）

担当したアーティスト　AI、クリス・ハート、ナオト・インティライミ、back number、松田聖子、ほか多数

2017年2月度レコード生産実績

２月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）の生産実績は、数量で前年同月比 88%の 1,449 万枚・巻、金額で同 84%の 168 億円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比 89%の 1,067 万枚・巻、金額で同 96%の 127 億円。音楽ビデオが、数量で前年同月比 84%の 381 万枚・巻、金額で同 60%の 41 億円となっている。

● オーディオレコード

（数量:千枚・巻/金額:百万円）

		２月実績						2017 年 1 月～ 2017 年 2 月累計					
		数　量	構成比	前年同月比	金　額	構成比	前年同月比	数　量	構成比	前年同期比	金　額	構成比	前年同期比
8cmCD シングル	邦	2	0	30%	2	0	31%	9	0	73%	6	0	74%
	洋	0	0	-	0	0	-	0	0	50%	0	0	52%
	計	2	0	30%	2	0	31%	9	0	72%	6	0	74%
12cmCD シングル	邦	3,350	31	93%	2,829	22	105%	6,542	29	101%	5,156	19	107%
	洋	8	0	76%	6	0	75%	8	0	69%	6	0	67%
	計	3,358	31	93%	2,835	22	105%	6,550	29	101%	5,162	19	107%
シングル 計	邦	3,353	31	92%	2,831	22	105%	6,551	29	101%	5,162	19	107%
	洋	8	0	76%	6	0	75%	9	0	69%	6	0	67%
	計	3,361	31	92%	2,837	22	105%	6,559	29	101%	5,168	19	107%
12cmCD アルバム	邦	5,971	56	93%	8,410	66	95%	13,217	59	105%	18,725	70	102%
	洋	1,156	11	65%	1,180	9	76%	2,316	10	72%	2,289	9	79%
	計	7,127	67	87%	9,590	76	93%	15,533	69	98%	21,015	79	99%
CD 計	邦	9,323	87	93%	11,241	89	98%	19,767	88	103%	23,887	90	103%
	洋	1,165	11	65%	1,186	9	76%	2,325	10	72%	2,296	9	79%
	計	10,488	98	89%	12,427	98	95%	22,092	99	99%	26,183	98	100%
アナログ ディスク	邦	67	1	576%	121	1	166%	78	0	180%	136	1	110%
	洋	34	0	127%	64	1	138%	59	0	114%	114	0	130%
	計	102	1	264%	185	1	155%	137	1	144%	249	1	119%
カセット テープ	邦	64	1	106%	53	0	100%	103	0	75%	85	0	73%
	洋	0	0	1376%	0	0	1381%	0	0	80%	1	0	76%
	計	65	1	107%	54	0	101%	103	0	75%	86	0	73%
その他	邦	10	0	86%	16	0	89%	21	0	99%	31	0	93%
	洋	9	0	68%	17	0	60%	23	0	81%	44	0	80%
	計	19	0	76%	33	0	71%	44	0	89%	74	0	85%
合　計	邦	9,465	89	93%	11,430	90	98%	19,969	89	103%	24,138	91	103%
	洋	1,208	11	66%	1,268	10	78%	2,407	11	73%	2,454	9	80%
	計	10,673	100	89%	12,698	100	96%	22,376	100	99%	26,592	100	100%

● 音楽ビデオ

		２月実績						2017 年 1 月～ 2017 年 2 月累計					
		数　量	構成比	前年同月比	金　額	構成比	前年同月比	数　量	構成比	前年同期比	金　額	構成比	前年同期比
DVD	邦	3,041	80	85%	2,243	55	47%	5,402	82	72%	4,464	60	45%
	洋	85	2	167%	123	3	221%	116	2	81%	170	2	84%
	計	3,126	82	86%	2,367	58	49%	5,518	84	72%	4,634	63	46%
ブルーレイ ディスク	邦	672	18	74%	1,692	41	87%	1,020	16	52%	2,705	37	63%
	洋	14	0	78%	33	1	99%	26	0	51%	70	1	50%
	計	686	18	74%	1,725	42	87%	1,046	16	52%	2,775	37	63%
テープ・その他	計	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合　計	邦	3,713	97	83%	3,936	96	59%	6,422	98	68%	7,169	97	50%
	洋	100	3	143%	156	4	176%	142	2	73%	240	3	70%
	計	3,813	100	84%	4,092	100	60%	6,564	100	68%	7,409	100	51%

● 音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）

		２月実績						2017 年 1 月～ 2017 年 2 月累計					
		数　量	構成比	前年同月比	金　額	構成比	前年同月比	数　量	構成比	前年同期比	金　額	構成比	前年同期比
オーディオレコード計		10,673	74	89%	12,698	76	96%	22,376	77	99%	26,592	78	100%
音楽ビデオ計		3,813	26	84%	4,092	24	60%	6,564	23	68%	7,409	22	51%
合　計	邦	13,178	91	90%	15,366	92	84%	26,391	91	92%	31,308	92	83%
	洋	1,308	9	69%	1,424	8	83%	2,549	9	73%	2,693	8	79%
	計	14,486	100	88%	16,790	100	84%	28,940	100	90%	34,001	100	83%

● ビデオレコード（含音楽ビデオ）

	２月実績						2017 年 1 月～ 2017 年 2 月累計					
	数　量	構成比	前年同月比	金　額	構成比	前年同月比	数　量	構成比	前年同期比	金　額	構成比	前年同期比
DVD	6,018	81	86%	6,510	60	67%	10,793	81	84%	12,170	60	65%
ブルーレイディスク	1,441	19	29%	4,339	40	44%	2,501	19	36%	8,167	40	53%
テープ・その他	0	0	100%	0	0	199%	0	0	223%	0	0	326%
合　　計	7,460	100	62%	10,849	100	56%	13,293	100	67%	20,338	100	60%

● オーディオ/ビデオレコード合計

	２月実績						2017 年 1 月～ 2017 年 2 月累計					
	数　量	構成比	前年同月比	金　額	構成比	前年同月比	数　量	構成比	前年同期比	金　額	構成比	前年同期比
オーディオレコード計	10,673	59	89%	12,698	54	96%	22,376	63	99%	26,592	57	100%
ビデオレコード計	7,460	41	62%	10,849	46	56%	13,293	37	67%	20,338	43	60%
合　　計	18,133	100	76%	23,547	100	72%	35,670	100	84%	46,930	100	78%

備考　1. 本年実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
3. オーディオレコードのその他は SACD、DVD オーディオ、DVD ミュージック、MD の合計。
4. 音楽ビデオ、およびビデオレコードのその他は LD、HD DVD の合計。

ゴールドディスク

GOLD DISC

2017年2月度

音楽ソフト

シングル

邦 楽

プラチナ	バグっていいじゃん	HKT48	2017.02.15	ユニバーサル ミュージック
	OVER THE TOP	Hey! Say! JUMP	2017.02.22	ジェイ・ストーム
ゴールド	グリーンボーイズ	グリーンボーイズ	2017.01.24	ソニー・ミュージックレーベルズ（EPICレコードジャパン）
	EMMA	NEWS	2017.02.08	ジャニーズ・エンタテイメント
	道しるべ	舞祭組	2017.01.04	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ

アルバム

邦 楽

ダブル・プラチナ	君の名は。	RADWIMPS	2016.08.24	ユニバーサル ミュージック
ゴールド	革命の丘	SKE48	2017.02.22	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ
	ALL SINGLeeeeS ～& New Beginning～	GReeeeN	2017.01.24	ユニバーサル ミュージック
	WAY OF GLORY	AAA	2017.02.22	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ
	MADE	BIGBANG	2017.02.15	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ

ビデオ

邦 楽

ゴールド	EXILE ATSUSHI LIVE TOUR 2016 “IT’S SHOW TIME!!”	EXILE ATSUSHI	2017.02.15	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ

※日付は発売日

有料音楽配信

シングルトラック

邦 楽

ミリオン	R.Y.U.S.E.I.	三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE	2014.06.25	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ
	前前前世（movie ver.）	RADWIMPS	2016.07.25	ユニバーサル ミュージック
トリプル・プラチナ	タイヨウのうた	Kaoru Amane	2006.08.30	ソニー・ミュージックレーベルズ（ソニー・ミュージックレコーズ）
ダブル・プラチナ	なんでもないや（movie ver.）	RADWIMPS	2016.08.24	ユニバーサル ミュージック
	3月9日	レミオロメン	2004.03.09	JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
プラチナ	道	宇多田 ヒカル	2016.09.16	ユニバーサル ミュージック
	ハッピーエンド	back number	2016.11.16	ユニバーサル ミュージック
ゴールド	REVERSI	UVERworld	2012.11.28	ソニー・ミュージックレーベルズ（ソニー・ミュージックレコーズ）
	蝶々結び	Aimer	2016.08.08	ソニー・ミュージックレーベルズ（SME レコーズ）
	Cherish	大塚 愛	2005.12.14	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ
	糸	クリス・ハート	2014.06.25	ユニバーサル ミュージック
	オトノナルホウヘ→	Goose house	2014.02.19	ソニー・ミュージックレーベルズ（ソニー・ミュージックレコーズ）
	優しい雨	小泉 今日子	2008.01.23	JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
	言えないよ	倖田 來未	2010.10.13	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ
	色彩	坂本 真綾	2015.01.28	JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
	STAY TUNE	Suchmos	2016.01.13	スペースシャワーネットワーク
	Welcome to TOKYO	三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE	2016.11.09	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ
	Lil’ Infinity	AAA	2015.02.18	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ
	アシタノヒカリ	AAA	2015.05.20	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ
	おとなの掟	Doughnuts Hole	2017.02.07	ソニー・ミュージックレーベルズ（アリオラジャパン）
	若者のすべて	フジファブリック	2010.09.01	ユニバーサル ミュージック
	時よ	星野 源	2015.12.09	JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
	ヒカリノアトリエ	Mr.Children	2017.01.20	トイズファクトリー
	禁断のレジスタンス	水樹 奈々	2014.10.15	キングレコード
	LOSER	米津 玄師	2016.09.28	ソニー・ミュージックレーベルズ（ソニー・ミュージックレコーズ）
	一度だけの恋なら	ワルキューレ	2016.05.11	JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント

洋 楽

トリプル・プラチナ	シェイク・イット・オフ	テイラー・スウィフト	2014.09.24	ユニバーサル ミュージック
プラチナ	ドント・ルック・バック・イン・アンガー	オアシス	2006.11.08	ソニー・ミュージックレーベルズ（ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル）

※日付は配信開始日

認定基準一覧　音楽ソフト（アルバム・シングル・音楽ビデオ）、音楽配信（着うた®、シングルトラック・アルバム）共通

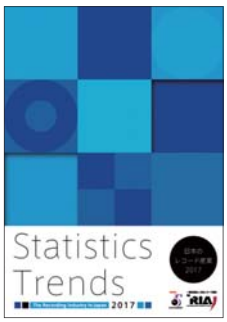
名 称	ゴールド	プラチナ	ダブル・プラチナ	トリプル・プラチナ	ミリオン	2ミリオン
基 準	10万以上	25万以上	50万以上	75万以上	100万以上	200万以上

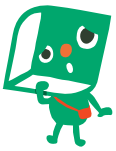
基準単位: 音楽ソフト・枚、配信・DL（ダウンロード数）
※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰
※※「着うた®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です
※※※3ミリオン以降、100万毎に認定

協会からのお知らせ

当協会は、「日本のレコード産業2017」を発行いたしました。本誌は、2016年のレコード産業の概要を網羅したA4版24ページの小冊子で、レコードの生産実績、有料音楽配信売上、新譜・カタログ数、ミリオン認定などの情報を幅広く掲載しています。なお、英語版「RIAJ YEARBOOK 2017」は5月発行予定です。

本誌のPDF版については、当協会ホームページ（http://www.riaj.or.jp/f/issue/industry）をご覧ください。





エルマークキャラクター
エルマーくん

THE RECORD No.689　2017年4月号
一般社団法人 日本レコード協会　機関誌

発行人　斉藤 正明
編集人　原 康晴
発行日　2017年4月13日
発　行　一般社団法人　日本レコード協会
〒105-0001　東京都港区虎ノ門2-2-5　共同通信会館9F
TEL. 03-5575-1301（代）FAX. 03-5575-1313
URL: http://www.riaj.or.jp/

制作協力　株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

何事も振り返りが大事とはいいますが、“アニバーサリーイヤー”は特にこれまでを振り返ることのできる絶好のタイミングだと思います。音楽業界では、アーティストがベスト盤の発売や、大規模なライブ、特別イベントなどを実施することでファンとの絆を確かめる一方、それに応えるように、SNS上はファンからのお祝いのコメントがあふれる“祭り”状態になるなど、アーティストとファンが互いにお祝いし、感謝し合う様子が見受けられます。移り変わりの激しい業界の中で、長年愛されるアーティストと、その節目をきっかけにありがとうと言い合えるファンの関係はとても素敵だと思います。（M）

■ 当機関誌へのご意見・ご感想がございましたら、当協会公式サイト（URL: http://www.riaj.or.jp）のお問い合せページよりお寄せください。